

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2005-4-2/4-3 CYCLE)

Experimental Group	T579/T589	Reporter	足立 一郎
Scheduled Period and Shift	2005/12/5-12(20shift)及 び12-21(20shiiift)	Main, Sub, Para	Main
Experimenters 飯嶋（名古屋）、住吉（都立）、西田、足立（KEK）その他			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>T579での実験については(1)最適化したエアロジェル輻射体を用いたチェレンコフ光の増加及び分解能の系統的な評価、(2) 新しハイブリッドアバランシェ光検出器（HAPD）によるチェレンコフイメージの測定の二項目が大きな課題である。(1)については透明度向上によって光電子数の向上がみられた。また、各種のエアロジェルのテストから、例えばエッジでの影響などがスタディできた。一方、(2)についてはHAPDのベンチマークテストでは一光子信号の確認ができたなら、ビームテストではノイズの影響から詳細な解析が必要で、現在進行中である。T589のMCPを用いたRICH-TOF測定では、ほぼ順調にデータ収集を行い、MCPへの入射粒子に対しては約35ps、チェレンコフ光については約50psの時間分解能が得られており、細かな補正などは解析中である。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>テスト実験中にEP2取出しからEP1取出し変更があり、この変更後ビームのレートがやや悪化した。</p>			
<p>COMMENTS</p>			